

Hello! FUJISEI

No. 152

診察を受けた結果、思いもかけなかった病気の疑いがあることを医師から告げられたとき、多くの人は他の医師の意見を聞きたいと思うのではないのでしょうか。

厚生労働省「平成23年受療行動調査（確定数）の概況」で、「病気や症状」におけるセカンドオピニオンの必要性についてみると、「必要だと思う」は外来23.4%、入院33.8%で、「必要だと思わない」は外来が53.3%、入院が43.1%と、入院の方が「必要だと思う」が高くなっています。

セカンドオピニオンを「受けたことがない」と回答した人について、セカンドオピニオンを受けなかった理由を聞くと、外来・入院ともに「受けた方がいいのか判断できない」「どうすれば受けら

セカンドオピニオン

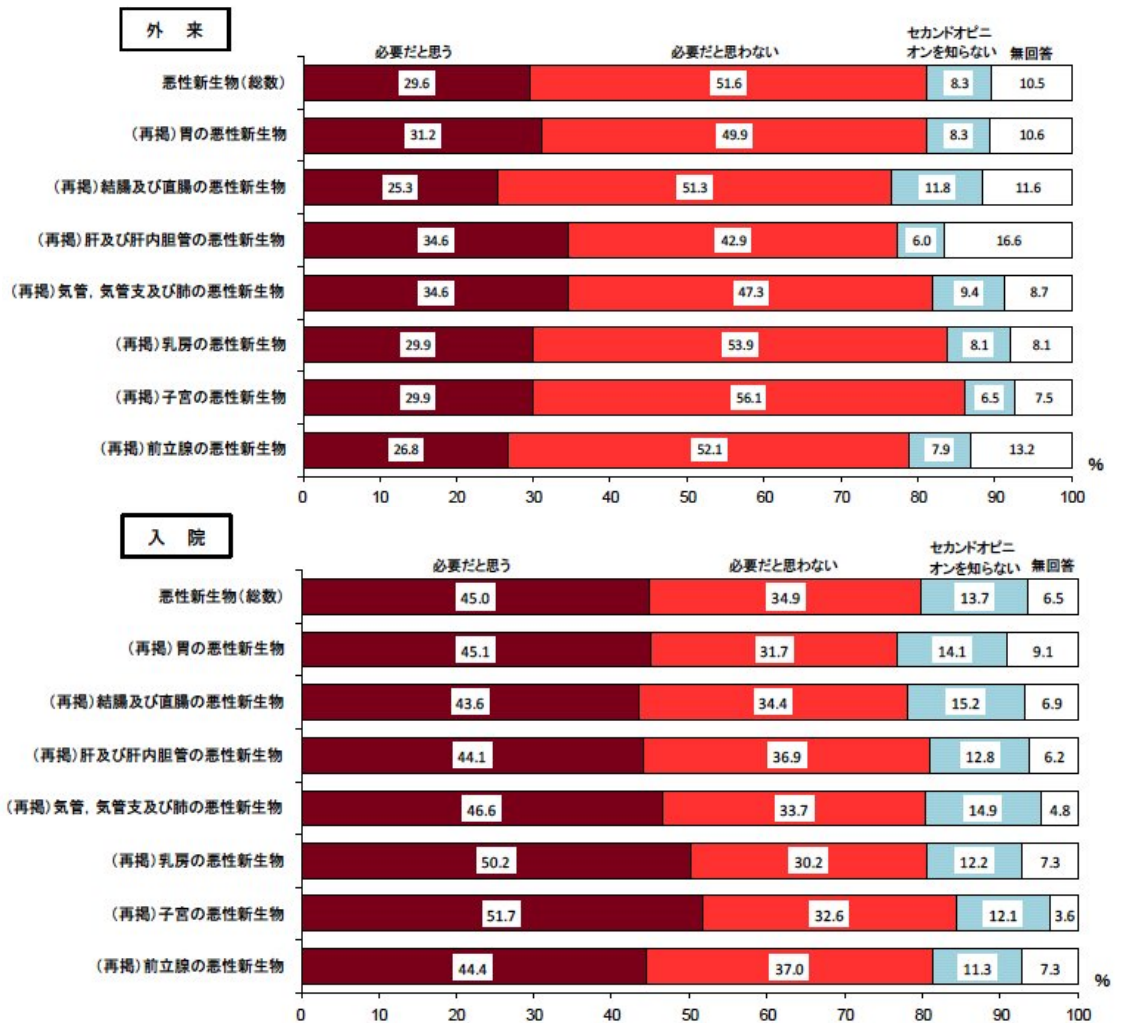
受けた方がいいのか 判断できない人も

れるのかわからない」「主治医に受けてほしいと言いつらい」が多くなっています。

それでは、「悪性新生物」の部位別にセカンドオピニオンが「必要だと思う」の割合をみると、外来が「肝

及び肝内胆管の悪性新生物」及び「気管、気管支及び肺の悪性新生物」ともに34.6%となり、入院は、「子宮の悪性新生物」51.7%、「乳房の悪性新生物」50.2%などとなっています。

悪性新生物に関するセカンドオピニオンの必要性



厚生労働省「平成23年受療行動調査（確定数）の概況」（平成23年10月）